

さくら



令和5年6月5日(月)

思いやり算



お母さん（義母）が介護施設に入所して5年が経ちました。入所後も、家族や親戚で協力して、可能な限り面会に行くようにしていました。しかし、この3年間は、新型コロナのパンデミックにより、全く会わせてもらえない時期もありました。

その後、施設の玄関で窓ガラス越しに電話を使って会話ができるようにりましたが、とても寂しいものを感じていました。

この5月に新型コロナの法律上の位置づけが変わりました。また、感染拡大状況も現在のところは落ち着いています。このような理由から、やっと施設への出入りが可能となりました。

お母さんは、アルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症という、2つの脳の病気にかかっています。皆さんも聞いたことがあるかもしれませんが、認知症という病気は、年をとると誰でもかかる可能性のあるものです。この病気にかかると脳の細胞が傷つき、物忘れがひどくなったり、今まで出来ていたことができなくなるのです。お母さんもしだいに記憶力が低下して、私たち家族のことも分からなくなってきました。だからこそ私たち家族は、これまで家族のために何十年も頑張ってきたお母さんへの恩返しをするために会いに行きます。直接面会できるようになったことが嬉しくてたまりません。

昨日も面会に行きました。施設内の廊下に、とても元気になる言葉が書かれた色紙があったので、その内容を紹介します。

算数が苦手な人にもできる「おもいやり算」

+「たす」けあうと大きな力に -「ひき」うけると喜びが生まれる
×声を「かける」と一つになれる ÷いた「わる」と笑顔が増える
優しく生きていこう

どんな時も優しく生きる心を忘れないようにしたいものです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

